

## 2016年度 どうぶつたちの病院 事業報告

どうぶつたちの病院では、2016年度も対馬および東京の2つのプロジェクトにおいて、ツシマヤマネコをはじめ野生動物の保護活動と飼育動物の適正飼養普及活動などに取り組みました。

2016年度は、当法人職員も飼育員として勤務する対馬野生生物保護センターに4名の新しい職員が来ました(大多数の職員は3年任期)。ヤマネコ救護体制の維持・発展の為には関係機関との協力と意思共有が不可欠です。新たなチーム作りが必要となると同時に、救護の歴史を長く知る者の存在意義と使命を痛感する1年となりました。

地域に根ざし、地域と共に、どうぶつたちの病院は今後も活動を続けてまいります。引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

それでは、2016年度の活動の概要を報告いたします。

### 【対馬プロジェクト】

長崎県対馬に生息し絶滅の危機に瀕するツシマヤマネコの保護活動のため、本法人は対馬で対馬動物医療センターを運営し獣医師、動物看護師が常駐しています。2016年度は以下の事業に取り組みました。

#### ■ ツシマヤマネコ保護事業 ■

現在のツシマヤマネコの個体数(推定)

70 または 100 頭

2016年度 救護された個体数 3 頭

##### ① ナナミ(愛称)

- ・2015年12月、衰弱で保護される。
- ・左前肢の麻痺、多くの歯が無く高齢個体と考えられた。
- ・2016年11月、野生復帰の為のリハビリを経て放獣→追跡調査。
- ・2017年12月、衰弱の為に再保護。
- ・治療を経て2017年5月に「ツシマヤマネコ野生順化ステーション」へ移動、リハビリ中。

##### ② げんご(愛称)

- ・2016年12月、箱罠による錯誤捕獲。
- ・健康診断を実施、異常がないことから錯誤捕獲地点周辺で放獣。

##### ③ みのり(愛称)

- ・2017年2月、獣害対策用くくり罠(シカ、イノシシ)による錯誤捕獲。
- ・くくり罠による頸部圧迫痕が認められ、数日間の経過観察を実施。
- ・健康診断を実施、異常はなく、頸部圧迫痕も快方に向かっていることから錯誤捕獲地点周辺で放獣。

交通事故による死亡 8 頭



●本法人の職員を対馬野生生物保護センター（以下、TWCC）に常駐させ、TWCCで飼育されているツシマヤマネコの飼育、緊急的な保護、診療および健康診断の補助、野生で保護された個体の救護や治療の補助などを行いました（環境省受託事業）。

2016年11月、対馬野生生物保護センターに福岡市動物園からナミ（愛称）がきました。動物園生まれのナミは先天性の病気を持っている為、生涯対馬で飼育される予定です。少しでも長生きしてくれるよう、対馬での生活がより良いものになるよう、スタッフ一同努力していきたいと思っています。



ハズバンダリートレーニングの様子  
(展示個体：福馬)

### ツシマヤマネコ疾病学

飼い犬や飼い猫の診察をしていると実に様々な種類の病気に遭遇します。飼育環境や予防獣医学の発展によって愛玩動物(ペット)も人と同様に長寿化が進んで来ました。今や、愛玩動物(ペット)の癌や痴呆といった病気も珍しいものではなくなっています。

野生のツシマヤマネコ（以下：ヤマネコ）が救護される原因の多くは衰弱です。特に親離れ間もない亜成獣の衰弱保護が目立ちます。対馬の自然環境（ヤマネコにとっての餌資源）が十分でないのかもしれませんが、「自然で生きていくことは簡単なことでは無い」ということなのかもしれません。2015年に保護されたナナミも衰弱保護でした。高齢個体の衰弱保護は非常に珍しいのですが、保護時に左前肢が麻痺していたことから、十分な餌が採れなくなった事が原因と考えています。左前肢麻痺の明らかな原因はわかりませんが、猫やツシマテンとの喧嘩、交通事故等で起こると思われます。


愛玩動物（ペット）同様、ヤマネコにも様々な病気が存在すると思われませんが、野生のヤマネコは人知れず死んでいくために、それに遭遇する機会は希なことです。一方、動物園等で飼育されているヤマネコでは猫に類似した病気に遭遇する機会が度々あります。動物園のヤマネコも高齢化を迎えており、今後様々な病気と遭遇することになるかもしれません。

ナナミはリハビリ期間中の2016年に水晶体脱臼という眼の病気になりました。この病気は高齢の犬や猫で時々起こる病気です。福岡市動物園から対馬野生生物保護センターに来たナミは不完全型心内膜床欠損症という先天性心臓病を持っています。犬の先天性心疾患は500頭中1～2頭の割合で見られる（0.2～0.4%）と言われています。猫はそれよりもさらに低い割合だと言われています。先天性心疾患の原因は今のところわかっていませんが、原因究明のための研究が少しずつ始まっています。

野生のヤマネコも、動物園のヤマネコも、望むと望まないに関わらず、人と関わることになったヤマネコたち。治せる病気も治すのが難しい病気も様々ありますが、今自分達ができる事の精一杯を、それがヤマネコたちの明るい未来に繋がることを信じて、そう思う今日この頃です。（理事長・獣医師 越田雄史）

●国が進めるツシマヤマネコ野生復帰事業に向けたツシマヤマネコの生息環境整備のため、飼い主不明のネコ（ノラネコ、世話ネコ）の対策を実施しました。ツシマヤマネコの生息を脅かす原因のひとつであるノラネコからの感染症を防ぎ、将来的にはノラネコの個体数を減らすための措置です。対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会と集落が協力して実施体制を構築し、本法人がネコの捕獲・運搬・不妊処置やワクチン接種、マイクロチップ挿入等の医療処置を実施し、捕獲集落にて放獣しました。今年度は上対馬町泉、上県町女蓮、美津島町緒方、美津島町焼松、巖原町上槻で実施し、合計60頭のネコを処置しました（対馬市及び環境省受託事業）。

### ネコに困っていませんか?? ～やめよう、無責任な餌付け～



餌付けで増えたノラネコたちは、人にも他の動物にも、様々な被害をもたらします。  
例えば・・・

- ・近隣住民宅での糞尿被害の発生
- ・人獣共通感染症の懸念
- ・ネコ同士の感染症蔓延 など

ノラネコ自身も、病気やケガ、交通事故に遭うなど不幸です。  
結果的に、かわいそうなネコを増やしてしまうだけです。

対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会では、ノラネコ不妊化事業を実施しています。詳細については、下記の連絡先までお問い合わせください。  
連絡先：対馬市 市民協働・自然共生課：0920-53-6111

### 人と動物との共生のために・・・ ノラネコ不妊化事業について

対馬市では、地域のノラネコの数を減らし地域の生活環境の改善を図るため、対馬市ネコ適正飼養条例に基づき、島内におけるノラネコ不妊化事業を展開しています。

#### 住民

- ・集落として対策に取り組むことに合意
- ・集落単位での事業への応募
- ・説明会への参加
- ・処置後の地域ネコの監視
- ・新規流入ネコの確認→市への連絡
- ・無責任な餌やりの禁止

#### 対馬地区 ネコ適正飼養推進連絡協議会

- ・ノラネコ不妊化事業参加集落を公募
- ・一定条件を満たした対象集落を決定
- ・説明会開催
- ・捕獲及び不妊化処置を実施
- ・捕獲地で放獣
- ・実施後のフォローアップ

**連携**      **協力**

### 住民と協議会とが協力し、共に取り組んでいきましょう。 ノラネコ不妊化事業実施の流れ

#### ①：公募

ノラネコ捕獲事業対象地域を公募捕獲事業実施後も継続して、監視体制がとれ、かつ地域全体としてネコの適正飼養に取り組む意思があることが条件となる。

#### ②：対象地域説明

協議会が実施する内容及び地域に協力してもらいたいことについて改めて説明会を実施。連携した取組みとする。

#### ③：捕獲・搬送 不妊化処置

協議会が箱ワナにて捕獲を実施。地域に伺い、病院へ搬送します。

#### ④：放獣

処置済みノラネコは目印として耳先をカットして放獣します。地域で見守って下さい。

#### ⑤：継続した監視・連絡

地域に、耳カットがされていない新たな個体を発見した際は、協議会へご連絡下さい。

ゴール：集落の未処置ネコをなくし、将来的にノラネコを根絶

●また、飼い主不明のネコだけでなく、飼養ネコに対しても、適正飼養推進～人とネコの共生をめざし、のべ68頭のネコに対して、不妊処置、ワクチンやマイクロチップ挿入等を行いました（対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会による「ネコ生活サポートキャンペーン」事業）。



■ ツシマヤマネコ以外の野生動物保護事業 ■

本法人対馬動物医療センターにて 10 件の野生動物を救護しました。

内訳: : トビ(1)、シジュウカラ(2)、コシアカツバメ(1)、ハヤブサ(1)、エゾビタキ(1)、  
ミツユビカモメ(1)、ハイタカ(1)、コウライキジ (卵)、ツシマテン (1)

予後: 野生復帰 6 死亡 (来院時死亡含む) 3 終生飼育 1



コウライキジ



シジュウカラ

■ 一般診療事業 ■

対馬市北部にある唯一の動物病院として、本法人対馬動物医療センターにて 1,195 件の診療を実施しました。

■ 教育普及活動 ■

● 動物愛護週間イベント「わんにゃんフェスティバル」

(9月17日対馬市内／九州地方環境事務所および長崎県獣医師会对馬支部主催、対馬振興局及び対馬市共催) を開催運営しました。



クイズラリー



エア遊具 (対馬市)

- ツシマヤマネコを飼育している動物園でのイベント参加  
京都市動物園 「ヤマネコ博覧会」(10月15～16日)  
井の頭自然文化園 「やまねこ祭」(10月29～30日)

いずれもブースを出展し、活動紹介のパネル展示、オリジナル商品の販売のほか、小学生対象のプログラム「クイズをしながらヤマネコたちを知ろう!」と呼びかけ、次の2種類のゲームを実施しました。

- ・「安心するには近すぎる」: ツシマヤマネコの気持ちになって、人との適切な距離を体感してもらいました。
- ・「この森に住めるのは何頭のヤマネコ?」: ツシマヤマネコになりきり、自然の中で生きていくことを考え、現実には起きている問題を知り、自然の大切さを感じてもらいました。



- そのほかのイベント参加

「2016 動物感謝デー in JAPAN～World Veterinary Day」(日本獣医師会主催) 11月12日(土)

「対馬市民ボランティアフェスティバル」(対馬市ボランティア連絡協議会主催) 12月11日(日)

## 【東京プロジェクト】

世界自然遺産である小笠原の野生を守る活動を 2005～2014 年まで実施しました。2011 年からは、フクシマの二ホンザルの健康調査等に取り組んでいます。

### ■ 福島の子ホンザルの放射能による健康被害調査に参加 ■

福島では、2008 年度から県の管理計画に基づく個体数調整で福島市が捕獲したサルの解剖調査が継続して行われており、妊娠率など貴重なデータが蓄積されてきています。

そこに起こった福島第一原子力発電所の爆発により福島市は放射性物質に汚染され、ここに生息するサルたちは、世界で初めて原発災害によって被曝した野生霊長類となりました。ヒトを含めた低線量長期被曝による健康影響を明らかにするために、20～25 年の寿命を持つサルを長期的にモニタリングすることは極めて重要であると考えています。

そこで、福島市内で法の基本方針で定める方法により捕獲・安楽殺処分されたサルの筋肉中の放射性セシウム濃度を測定し、血液学や病理学などサルの健康に関わる検査データとともに分析し、被曝によるサルへの健康被害を調べる調査が 2011 年 4 月より、日本獣医生命科学大学を中心に多くの関係機関により行われており、当法人も、これに参加しています。

2011 年 4 月以来、1,018 頭の調査を実施し、筋肉中のセシウム濃度と抹消血球数に負の相関関係があることが判りました。また新たに、筋肉中のセシウム濃度が高い母ザルでは、胎児の成長に影響があることが判りました（京都大学霊長類研究所共同利用研究助成）。

### ■ 下北半島に生息する北限の子ホンザル健康調査に参加 ■

青森県下北半島の子ホンザルは国の天然記念物および絶滅に瀕した地域個体群として保護されてきましたが、2012 年より個体数調整が始まったため、現地で殺処分された個体について日本獣医生命科学大学が中心になって調査を行っており、当法人は、これに参加しています。これまでに 671 頭を調査しました。

### ■ 小笠原の状況 ■

2011年6月に世界自然遺産登録され、2017年4月に「小笠原世界遺産センター」が完成し、センター内には、獣医師（東京都獣医師会）が常駐し、野生動物の保護や家庭飼育動物の適正飼養推進活動、捕獲されたネコの体調管理などを行う「動物処置室」も設置されました。

2005年以来、島外に搬出された飼い主のいないネコは、624頭(4月現在)。2009年より、母島南崎でオナガミズナギドリの巣立ちが再開し、カツオドリは2014年に営巣を再開し無事巣立ちを迎えました。2008年の国際ワークショップ開催時点で、推定生息数40羽程度と言われていたアカガシラカラスバトも600羽程度（2016年時点）に回復し、ワークショップの目標だった1000羽に近づきつつあります。

## 【収支報告】

2016 年度収支は以下のとおりとなりました。

		(単位：円)
<b>収入の部</b>		
	会費収入	110,000
	寄付金収入	1,213,171
	助成金収入	606,883
	事業収入	29,023,025
	その他（雑収入、受取利息など）	448
	計	30,953,527
<b>支出の部</b>		
	事業費	
	対馬プロジェクト	22,510,170
	受託事業	(14,271,945)
	独自事業（動物診療）	(7,729,524)
	普及啓発事業	(508,701)
	東京プロジェクト	0
	管理費	6,367,312
	計	28,877,482
<b>当期収支差額</b>		2,076,045
前期繰越収支差額		32,722,627
次期繰越収支差額		34,798,672

2016 年度事業報告は以上です。